

# 東京桑野会会報



No.24



## ご挨拶

東京桑野会会長  
古川 清

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

私が安積に入ったのは昭和19年で戦争が段々激しくなり物資が窮乏して来た頃だった。コミュニケーションの手段は電話か電報のみで、電話も市外は交換手に申し込んで繋がるのを待つシステムであった。東京に掛けるのに何時間も待つことがあり、値段が三倍高い「特急」にすると割合早く話すことが出来た時代である。

それから半世紀、世はIT革命で携帯とインターネットの時代になった。電車に乗ると女学生達が盛んに携帯でメールを送ったり受取ったりしているのが目につく。家に帰ればパソコンにメールが入っている人も多いのであろう。

併しどうもそこには人間的なぬくもりを感じられない。親子の会話が途切れた崩壊家庭でメールを使つての愛情の再構築を計っているなどの新聞記事を読むと尚更寒々とした気持ちになってしまう。人間はどう考えても多くの人と人間的なぬくもりのある繋がりがなくては生きてはいけないと思うからである。

その意味で桑野会という組織は安積に学んだ吾々にとり大きな財産だと言う気がする。昨年春母校が「21世紀枠」で甲子園に出場した時のあの盛り上がりには凄まじいものがあった。募金は8000万の目標を遥かに突破し1億を大きく上回ったし、多くの卒業生が相携えて甲子園に殺到し、応援歌は天に届して相手チームを圧倒した。この愛校精神は東京桑野会にも立派に根付いており会員総数3660名を維持、年一回の総会行事は

大賑いである。そこでは先輩も後輩もなく、年令を越えて会話が弾み満ち足りた気持で散会となる。この素晴らしい会を会員の協力と努力により更に良いものにして行きたいと思う。更に安積で学んだ者としての連帯意識で結ばれ、東京桑野会に加っていることが何らかの意味で各人の精神的支柱になることが理想であるが、私の判断では可成り理想に近づいて来ていると言う気がする。

問題点があるとすれば20~30歳代の若い世代のメンバーが必ずしも多くないことであろう。IT時代の影響でヤング世代の生活は多様化しており、同窓会などと言う既成の組織にさしたる関心が湧かないのかも知れない。併し親許から離れて生活している中に人恋しくなってくるのは必定であり、彼等に東京桑野会に回帰して貰う為にもこの会を更に魅力あるものにして行かなければならないと思う。

同時に各界で活躍している安積の同窓生で東京桑野会と無縁となっている人が多いのも事実であり、これらの人々の発掘と勧誘も課題の一つである。私自身何人かを発掘したが会員諸兄の御尽力をお願いしたい。

最後に、あと三年経つと歴史的とも言うべき女子卒業生がやって来るのでその歓迎体制をどうするかにつき各人の英知を頂きたい。女子同窓生にとっても居心地の良い会になって欲しいと考える。

# 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 2002年(平成14年)5月24日(金)
- 時 間 午後5時—受付開始  
午後6時—総会  
午後6時30分—懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件  
2. 予算決算の件  
3. その他
- 場 所 目白 椿山荘  
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1101)  
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生は年度会費込み 3,000円)  
2002年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されていますので、総会当日ご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費2,000円のお振込みのご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で5月10日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、2001年5月23日に開催され、200名近い参加者があり盛況でした。

# 母校便り

★「共学化、制服廃止から三ヶ月」梅田校長先生のインタビューから

「現在話題になっている共学化と制服廃止は君達にとってさほど大きな問題ではないことを認識すべきだ。君達の将来を考えた時、目前の課題だけでなく、常に広い視野を持って知的好奇心を満たす努力を続けて欲しいと思っている」話題の多くが制服問題だったので、私も疑問が。

★新生徒会役員が決定、田村生徒会会長の話

「これからの安積を作っていくのは生徒だと思う。生徒主体の学校を作っていきたい。生徒の関心を、積極的に活動することで高めていこうと思う。長い目で見て安高を動かしていくための土台をつくることは十分できる。安高を引っ張っていく自信はある。生徒会一丸となって頑張りたい」

★対面式・応援歌練習様変わり、応援団に紅一点、「オスツ！」から「ハイッ！」へ、応援団団長遠藤君の話

「男女の声のトーンが合わず教える方としてはとても苦勞した」なるほど!!

★女子座談会から

施設面や男子の意識に不満はあるようですが、安積高校に入って良かった! と言うことです。女子の「基準服」が欲しいという意見も。

★インターハイ県予選等

ハンドボール部東北三位。水泳男女個人(宮嶋君、石川さん)、剣道個人(湯田君)、弓道個人(三島君)その他。皆頑張っているようです。ちなみに、水泳女子の石川さんは校内ロードレース「初代」女子優勝者だそうです。

★安積高校生徒会が主催する第48回中学校弁論大会が安積高校旧本館におい

## 人が、季節が、集います。

### 味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラア

### 宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

### 寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN SO  
**椿山荘**  
03-3943-1101

て行われました。金さんが最優秀賞を受賞。

★桑野文庫主催の文化講演会で、本多隆先生による「キノコ」に関する話題提供がありました。安積校内で採取されたキノコは20科33属52種にもおよぶそうです。そういえば私的なことですが、存続が危ぶまれる思索の森に“一本シメジ”があったと喜んでいた元校長がいたような気がします。

(安積高校新聞 第163、164号)

このコラムを担当してから十数年が立ちます。女子校生の顔、名前が沢山登場している紙面は初体験です。いろいろなところで「改革」が叫ばれ、進められている昨今、良き伝統、文化を守っていくことも課せられた責務であると、大学改革の真っ直中にいる者として痛感しています。いみじくもTVのニュースで地球上の3000もの言語が十分に継承されていないというニュースが流れていました。

(2月24日村上記)

#### ★「思索の森」を守れ！ 野球室内練習場に異議あり

郡山市の安積高(梅田秀男校長)同窓会などが明治時代から残る「思索の森」と呼ばれる林の一部を伐採し、野球室内練習場の建設を計画していることに同窓生の一部が反発。「思索の森を守る会」をつくり、代替地を探すよう同窓会に再検討を求めていくことにした。二十九日、同窓会各期常任幹事の有志二十一人が市内で会合を開いて申し合わせた。これに対し、同窓会や学校側は「何が生徒のためになるのかを最優先した結果」とし、林の大切さは承知した上での苦渋の選択であることを強調している。

安積高はグラウンドが狭く野球、サ

ッカー部などが一緒に使っている。昨年は甲子園出場が決まってからも積雪のため土の上での練習がほとんどできなかったこともあり、室内練習場は野球部にとって念願の施設だった。

室内練習場は昨春の選抜高校野球大会に初出場した時の寄付金の残りで建設する。寄付金は甲子園出場後援会が約一億六千万円を集め、残った八千四百五十万円の使い道を同窓会や部活動後援会、PTAなどの代表を学校側が話し合ってきた。

練習場建設には六千万円を充て、野球部以外の運動部も使えるようにするという。

敷地内で木を切らずに済む場所も検討したが、適当な場所がなく、「思索の森」の一部を伐採して建設するしかない、という結論に達した。

これに対し一部の同窓生が「室内練習場の必要性はよく分かるが、開校当時から松林をこれ以上切るとは後世に禍根を残す」と異議を唱えていた。

このため同窓会の各期常任幹事の有志に呼び掛けて二十九日夜にビッグアイで意見交換会を開いた。

会合のあと会見した元郡山商工会議所会頭で同窓会顧問の滝田元二さんは「松林伐採に反対している同窓生はたくさんいる。代替地を探すよう求めていく」と語った。

滝田さんらは同窓会幹部に別の場所に建設するよう要望していく。

同窓会の石川博之会長は「PTAや野球部OBの代表、学校側などと話し合い、意見の最大公約数を集約して決めたこと」として苦渋の選択だったことを強調した。梅田校長も「木を切りたい人はだれもいない。生徒を思う気持ちは同じだと思う。何とか理解を得ていきたい」と話している。

(『福島民報』の記事より抜粋)

## 会員動向

☆坪井栄孝氏(58期、世界医師会長、日本医師会長)は、この秋の叙勲で勲一等旭日章の叙勲を受けられました。東京桑野会からはこの輝かしい栄誉をお祝いして、「安積健児の像」のレリーフ(45期の佐藤静司氏制作)を贈呈しました。


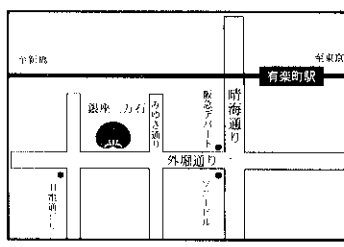
☆松津光威氏(71期、元メダニ総領事)はパナマ大使に就任されました。ますますのご活躍を祈ります。

☆宗像紀夫氏(73期、最高検察庁)は高松高検検事長に就任されました。ますますのご活躍を祈ります。

☆橋本逸男氏(79期、外務省国際情報局審議官)はラオス大使に就任されました。外交の第一線での今後のご活躍を祈ります。

☆相楽豊氏(115期、早稲田大学人間科学部4年)は早稲田大学競走部駅伝主将に就任されました。氏は2002年1月の箱根駅伝では、復路の山下りを走り同大学の3位入賞という快挙の原動力となりました。主将としても今後のご活躍を応援します。

★赤城海助氏(43期、元本会顧問、元興亜火災海上保険会長、元日本通運副社長)は2002年1月7日87歳で逝去されました。氏は本会の創成期より会の発展のためにご尽力されました。長年のご貢献に感謝し、ご冥福をお祈りします。



つぶ餡に栗の小粒をあしらった、自然海塩で塩味をほのかにきかせました。

和菓子 銀座 三万石

東京中央区銀座6-4-8 TEL. 03-3575-0007  
本店 郡山市駅前2-2-13  
代表取締役 池田惣一(71期)・池田仁(103期)

# 「思索の森」を思う

安積桑野会会長  
石川 博之 (63期)



私は、昨年9月の安積桑野会の総会で、会長に選任されました。

私は、貴会会長の古川清君とは同級生であります。古川君は、我々同期の中では一番大きくなった人であり、峰の大きさではとてもかないませんが、そこは同級生のよしみで仲良く手をつないでいきたいと思っています。

今泉顕前会長から説得されて固辞していたのですが、魔がさして重いバトンをもらってしまいましたが、しかし引き受けた以上、それぞれの歴代会長が悩みながら築いてきた安積の伝統を私なりに努力し、傷つけないよう微力を尽くしたいと思っています。

会の衡に立つもの自分勝手な考えではいけない。常に桑野会全体のことを考えて行動しなければならないと考えております。

現在、桑野会にとってしょう眉の急の問題は、校内南西の角（いわゆる思索の森の一部）に「屋内野球練習場」を建設することについての賛否両論の議論があります。分からない方が多いと思いますので、これまでの経過をかいつまで述べますと、

平成13年5月29日、「安積高

校甲子園出場後援会解散総会」が開催され、今泉会長は「募金余剰金の処理について募金活動の中心になった関係5団体代表にその使途を一任するとともに、当面は夏の大会を見据え、大会終了後に決定する。」との了解を得、同年9月11日、桑野会総会において、今泉会長が「余剰金の使途については、学校の考えを聞きながら進めること」の了解を得ました。同月12日、今泉会長より、校長に対し、余剰金の有効活用につき、「学校の要望」をまとめるように要請し、同年10月27日、学校側から野球部強化のための屋内練習場建設（建築場所未定）、部活動助成として中型マイクロバス（中古）購入、等の案が出ました。それを受け、同年11月9日、第1回後援会役員会。結論を得ず、校内合意をまとめてもらうのが先決と

いうことになり、同月16日、屋内練習場建設場所は「思索の森」の一部にと校内合意を得る。同月19日、第2回後援会役員会にて屋内練習場建設場所「思索の森」と決定。同月20日、設計委託。同年12月10日、(株)ハタヤ設計に決定。

平成14年2月5日、「思索の森」を守る会の要望書を受け、広く意見を聞くため、同年3月2日臨時の常任幹事会を開催して話し合いをしました。貴会からも会長代行として高松（74期）さんが参加して下さり、貴重な意見を下さいました。

「桑野会は一つ」。この問題が桑野会にとって遠心力が働くようなことがあってはならないと考えます。価値観が多様化し、複雑化している社会において一つの原理原則で事が決せられること

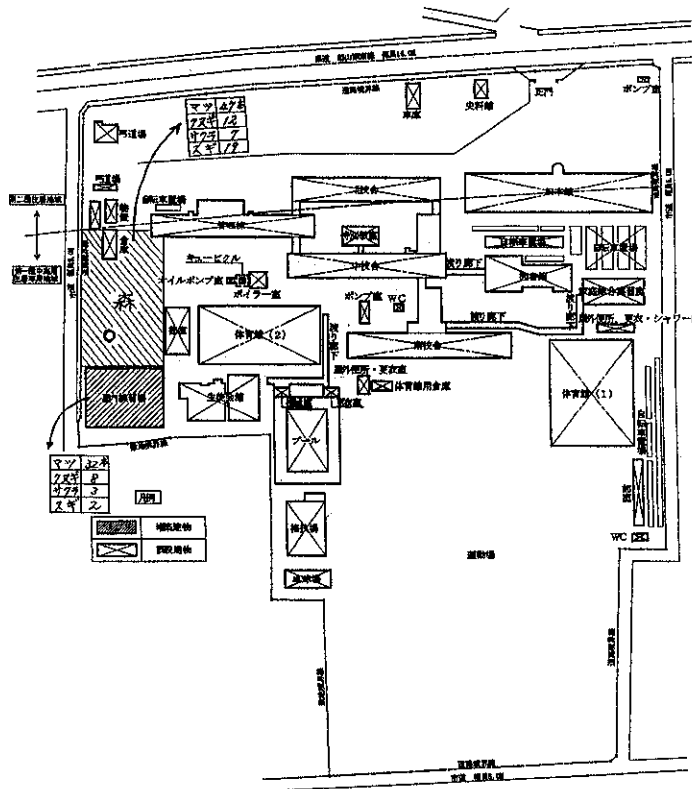
とは、まずありません。建設する事のプラス、マイナスを比較衡量して決する以外に方法はないと思います。もちろん全員一致の合意はありませんが、私は少数者も納得できる議論の過程を大事にしたいと考えます。

そこで各地区の桑野会にも声をかけ、参加戴いて、各期の常任幹事会を再び開き、意見を聞きたいと思っています。

私は、将来を見据え、あくまでも生徒に明日への大きな希望を活力を与えるものは何か、生徒たちの視点から筋を通したいと考えています。

よろしくご教示をお願いして、ご挨拶と致します。

(弁護士)



# 鞍手茶屋

東京で福島のけんちんともちを!!

——昼はそば、夜は酒と肴——

霞ヶ関店 〒100-6001 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル1F 電話 03-3581-7066

大手町店 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービルB1 電話 03-3213-2385

中山峠店 〒963-1304 福島県郡山市熱海町国道49号線中山峠 電話 0249-84-3774

〈店主〉上野富衛 (78期)

## 弁論大会

安積高等学校長  
梅田 秀男 (73期)

11月中旬本校で郡山市内中学校弁論大会が開催された。本校生徒会主催、安積桑野会・福島民報社後援で、今年で48回を数える伝統ある行事である。

会場は、ここしばらく校舎内の特別教室で行なっていたが、昨年度より旧本館二階講堂で実施している。今年は天候にも恵まれ、窓外は今を盛りの紅葉・黄葉、世紀を生き抜いてきた松の緑、そしてその樹間より、講堂奥深くまで斜めに差し込む秋の陽、幻想的な光景であった。また国重要文化財の明治のシャンデリアが会場の空気を一層荘厳なものとした。私は弁論が始まる前からその情景に酔っていた。

今年の出場者は市内13校から22人、生徒たちは、家族の絆や、人との出会い、戦争、平和、少年犯罪、将来への夢などそれぞれのテーマで意見を發表した。彼らは緊張の中にも皆誇らしげに壇上に上がり、生き生きと堂々と意見を述べた。その姿には健気にも今の世の様々な矛盾を正すのは自分達だ、世の将来は自分達の双肩にかかっているというような気概さえ感じられた。

思うに、本校同窓生の中で、この講堂で、この壇上でいったい何人が自分の考えを述べる機会に恵まれただろうか。高山樗牛、新城新蔵、朝河貫一、久米正雄、…、大先輩方はこの壇上に立たれたのだろうか。ここに立った先輩達は、今の中学生・高校生以上にしっかりと将来を見据え、夢を語り現実を直視し自らの士気を鼓舞したに違いない。一中学生の弁論を聴きながら私は諸々思いを巡らせていた。

昨今の子供たちは自分の考えをはつ

きりと述べるようになった、とはよく聞くことである。結構なことだ。しかし、改まった形で論理的に自分の意見をきっちりと発表できているかということになると、残念ながらそうではない。又、これは我々大人の責任であるが、発表の場も以前に比して少なくなっていると言わざるを得ない。

そのような中で、過般須賀川市で開催された「うつくしま未来博」では、「学生ディベート選手権」が企画された。佐藤知事さんも聴衆の一人として参加されており、知事さんの物事に向き合う姿勢の一端を垣間見させていただいた思いがした。本校は残念ながら出場しなかったが、高校生の部では男女混合チームで出場した磐城高校が決勝戦で茨城の江戸川学園取手高校を下して優勝した。大学生の部は早稲田大学が創価大を破って優勝したが、実に聴き応えがあり、ディベートの醍醐味を堪能することができた。このような経験は聴く者にとっても様々なものの見方・考え方に触れることができると同時に、物事の本質を掘り下げる目が養われ意味のあることである。出場した生徒・学生は、この数十分のために何日も何か月も前からその準備に当たったに相違ない。それを通して得られたものは計り知れないものがある。

今、壇上の中学生達も多くの時間を費やし、悩み、思索してここに臨んだに違いない。そしてこの由緒ある国重要文化財の講堂に立ったことは、今後の彼らにとって大きな財産となろう。

中学生弁論大会の審査には本校生徒会役員・教員が当たり、最優秀には今年初めて参加した福島朝鮮初中級学校2年女子生徒が選ばれ、盛会の中に幕を閉じた。

本校生徒会主催の弁論大会が約半世紀続いてきた意義は極めて大きい。

## 「ほっと一息」なのだが…

小林 正人 (70期)

平成13年6月末をもってわがサラリーマン生活も無事終了した。

思えば長い時間を一企業で過ごしたものよ、と思うことしきりである。

昭和32年母校安積を卒業して以来同窓の諸氏との交流は細々としたもので、それも日常仕事の中で偶然に同窓を確認することのできた限られた先輩後輩諸氏である。

時たま送られてくる会報の中からかつての同級生を見出すこともあったが、同窓会への出席も遠のきがちでこれまでに出席した記憶はない。

そんな私がこの文を認めたのは、同じ海運業界で働く増子氏(71期)の強い勧めが縁であり、かつての学友に会おうじて元気で過ごしていることを伝えるための消息文としての意味合いからである。

今では合併やリストラの言葉が大威張りやニュースの舞台裏を泳ぎ回っているような感すらある。私が海運会社(川崎汽船株)に就職したのは迫り来る海運集約を間近にした昭和37年であった。

当時日本経済の成長期にあつて守勢型の合併ではなくて攻撃型のものが多かったが、こと海運や繊維などの業界にあつてはすでに国際競争の中での守勢型の、規模の拡大に向かうことを余儀なくされていた。それは現在グローバル化の名の下におこなわれている企業集約・分割と似たような国際環境下でのものであったといえるが、当時その渦中にあつた者ですら、将来全産業に亘って海運業界と同じ動きが起こるだろうとは予想だにできなかった。

小型鋼船建造並に修理

廃水処理設備、環境衛生設備



京浜ドック株式会社

取締役社長 大内博文 (71期)

〒221-0022 横浜市神奈川区守屋町1-2-2 電話(045)461-6834 (代表)

その集約以来今日までの40年近くを海運業界は合併やリストラの連続で過ぎてきた。この間には企業数が著しく減少し、かつての名門企業ですらも数多く消え、業界に働く人々の数も10分の1くらいにまで落ち込んでしまったのではないだろうか。

詳らかではないが鉱山業や繊維業についても似たような状況であったろう。

現今進められているグローバル化への企業の再編、産業の再編成が果たして雇用機会を増やし、今以上の生活向上にまでは行かずとも社会の安定を図れるような仕組みを本当に作れるのだろうか、との強い疑問がある。

それゆえ、世界的に産業界の寡占化が進み、富の偏在をもたらすのでないかとの懸念が強まるこの時期に無事退職までこぎつけたことには一方で安堵しながらも、他方では若年層から中高年齢層までの失業率の上昇はじめ社会不安をもたらす要因が拡大しているようにも思え、新たな不安も抱くこの頃である。

(前川崎汽船健康保険組合常務理事)

## 再発見された国 アフガニスタン

石黒 早苗 (71期)

9月11日、アメリカ同時多発テロが起り、ビンラディン・タリバーン・アフガニスタンと関連させて、アフガニスタンという国のあることが、日本の多くの人々に知られるようになった。日本人だけではなく世界中の人々にもそうであった。

1979年のソ連のアフガニスタン侵攻により、アフガン難民はパキスタンに300万人、イランに200万人発生した。東西冷戦の最中、ソ連に対抗して、ア

メリカは多くの武器をアフガン人に提供し、多くの外人部隊もソ連との戦いに参加した。ビンラディンもその一人であった。難民援助も盛んで、アメリカやサウジアラビアなどの豊かな国が中心になって、援助活動をしたのである。しかし、1989年ソ連軍が撤退すると西欧諸国のアフガニスタンへの関心は薄れ、アフガニスタンは世界から忘れ去られ、貧しいまま取り残されてしまった。アメリカやサウジアラビアなどの豊かな国はいち早く援助活動から撤退し、国連さえも援助を縮小した。難民を抱えてもうま味の無くなったパキスタンは難民を強制的に退去させようとし、そのため取った手段は援助団体の外国人職員へのビザ発給の停止である。私たち燈台(アフガン難民救援協力会)も例外ではなく、日本人現地代表はパキスタンでの長期滞在は現在も出来ないのである。また、燈台は国連の放棄した難民学校の援助を今も続けている。ソ連軍の引き上げ後、アフガニスタン国内は部族間闘争が激化し、最終的にラバニ・マスード体制が出来たが、少数民族のタジク人、ウズベク人、ハザラ人で構成される北部同盟は略奪・レイプを繰り返し、アフガン人の多くは北部同盟を拒否し、タリバーンの登場となるわけである。治安は安定したが、過激なイスラム原理主義はアフガン人を苦しめる事になった。

燈台は1987年から、パキスタンのクエッタでクリニックと難民学校を運営してきた。10数万人のアフガン難民の小児の無料診療をし、現在は、小学1年生から高校3年生までの1300人の教育をしており、卒業生がアフガニスタン復興のための重要な人材になると期待してきたのである。また、1995年から首都カブールで、リーシュマニア症とマラリアの治療を始め、タリバーン

の支配下でも女性と子どもの患者の治療を続けてきた。職員は医者も含め女性中心である。同時多発テロ勃発後、外国の援助団体が引き上げたため、一般の患者が燈台クリニックに殺到し、緊急援助体制を組んで対応している。また、多くの新難民が発生したため、パシャワールでは緊急の食料援助と医療援助を開始した。

アフガン人のためには、平和が最高の贈り物である。だが、多民族国家が簡単に平和を保つのは困難かもしれない。しかし、今度こそ世界の人々がアフガニスタンの人々を忘れず、平和確立に協力する義務があると思うのである。

(燈台(アフガン難民救援協力会)事務局長 南福音診療所所長 医師)

## アフガン難民へ 救援の手を

増子 邦雄 (71期)

前文を書いた安高同期の石黒早苗君は、アフガン難民救援協力会「燈台」の専務理事・事務局長です。

「燈台」のパンフレットによれば、「燈台」は、アフガン難民およびアフガニスタン共和国国民のために、同国内およびその周辺地域において医療および教育等を実施することにより、アフガン難民等の福祉・健康の向上に寄与することを目的としています。

具体的な活動としては、パキスタンのクエッタ市にある4つの「燈台・難民学校」で、日本から「国際ボランティア貯金による寄付金」などの支援を得て、約1300名の小中高生を無料で教育しています。ここで学んだ子どもたちは、将来アフガニスタンに帰国した時、必ずや国の再建に必要な人材にな

## 公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-6 共同ビル(錦町三丁目)6階

TEL(03)3291-8361 FAX(03)-3291-8465

E-mail Address:cpahoshi@mxl.alpha-web.ne.jp

星 武典(58期)

ることでしょう。

勉強の内容は英語や算数や理科など多様であり、イスラム圏では異例の女子も学べる共学で、子どもたちは向学心に溢れています。先生たちも難民で、教師の資格を持つたいへん優秀な人たちです。このような「燈台」の学校は、地域で高く評価されており、たくさんの入学希望者が来ますが、資金不足で断らざるを得ない状況です。

医療援助にも力を入れており、アフガニスタンの首都カブールの「燈台マラリヤ・リーシュマニア センター」では、風土病のマラリアとリーシュマニア症の治療を無料で行っています。

マラリアは、高熱により命を失うことがある大変危険な病気です。リーシュマニア症という皮膚病は、サシバエ(蚊)を媒体として伝染し、顔にかさぶたのような黒点ができ、後に結核やガンになります。1970年代に撲滅されたこの病気は、戦災による都市の衛生状態の悪化により、再びアフガニスタンの28州に拡大しています。

現在、唯一「燈台」だけが、リーシュマニア症の治療に積極的に取り組み、成果を上げています。特効薬のグルコチンが、高価で十分な治療ができない状況です。

支援協力をお願い

「燈台」の活動は、会員の会費と寄付金によって支えられています。本会の趣旨にご賛同いただける方は、入会の上ご支援をお願いしたいとのことです。また会員以外の方からの寄付金も随時受け付けています。

ここで桑野会会員が立ち上がり、アフガニスタンの子どもたちのために支援、協力をしようではありませんか。

会費は個人賛助会員 月1000円(1口)です。

入会申込みおよび会費、寄付金の送

り先は次の通りです。

#### 「燈台」事務局

〒364-0021

埼玉県北本市大字北本宿161-4  
南福音診療所内 石黒事務局長 宛  
(「東京桑野会〇〇期」と明記してください)

TEL: 048-591-7191

FAX: 048-591-9668

E-mail: todai@mwa.biglobe.ne.jp

銀行振込:

あさひ銀行 北本西口出張所

普通 45750

郵便振替: 00150-1-91557

会員の皆さんのご協力をお願いする次第です。

(東京桑野会副会長)

### 人にやさしい 福祉のまちづくり

櫻井 淳 (78期)

5年前位から福祉のまちづくりに関わりはじめた。人に、専門は何ですかと問われると、犬小屋の設計から都市計画までと言うのが常ですが、基本的には、大袈裟に言えば、建築や都市の問題や課題を解決するのが仕事であると感じています。そのため、仕事が多様に又は雑多になる傾向にあります。今の主な仕事は、中心市街地や商店街の活性化で、商業・都市プランナーと呼ばれることが多い。

福祉のまちづくりは、横浜市の福祉局の委託で、横浜・関内駅周辺地区を重点地区として、バリアフリーのまちづくりを行なおうというもので、市民や商業者の参加を誘発しながら実践的

活動としてのまちづくりになっています。

日本でバリアフリーの概念は4年前の長野のパラリンピックでかなり一般化され、かなり理解されやすくなりました。私がこの活動に参加する動機は、様々な障害をもつ人と同じテーブルで会議をまとめる機会があり、その貴重な経験からでした。視覚障害の人、聴覚障害の人、脳性麻痺障害の人、車イスの人との相互のコミュニケーションが如何に大変か、さらに、障害者にはそれぞれの固有のスピードがあることを学びました。

日本は今、高速で超高齢化社会を迎えようとしています。欧米のようにゆっくりと高齢化社会を迎えたのではないため、様々な課題をはらんでいます。特にソフトの取り組みが弱い。例えば、日本は、シルバーシートのように、ソフトの課題をハードに置き換えて善とする傾向があります。ホスピタリティ(人のための行為が自分の喜びである)の精神が確立しています。

関内地区では、伊勢佐木町商店街等の若手の意識改革がめざましい、例えば、障害者の方を先生として、YMCAの支援を受けたバリアフリー接客講座の開設、障害者の絵画等のアート展(各お店に作品を展示)のイベント、様々な商業者と障害者の交流が広がっている。最近の目玉は「パラリン神輿」である。秋祭りに車イスで神輿をかついだ、皆初めての経験で、車イス障害者との交流から生まれた事業である。現在、バリアフリーマップとして、視覚障害者も兼用できる触知図(触って知る地図)の作成を試みている。この作成には市民が大勢協力している。

今、横浜はワールドカップサッカーで、色めいています。一方で地道なこの様なまちづくりも進行しています。

## 彩色用ゴム製品で世界のトップを行く ————— 工業用精密ゴム製品製造



- ◇創業 1970年
- ◇資本金 4億7935万円
- ◇株式会社登録
- ◇ISO9001 認証取得
- ◇ISO14001 認証取得

本社 〒330-0801 埼玉県大宮市土手町2丁目7番2号 tel.048-650-6051 (代表) Fax.048-650-5201 社長 伊藤 巖 (65期)  
大坂営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 tel.06-930-2521  
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 tel.0248-53-3491 Fax.0248-53-3493

今、商店街の中で、障害者と市民や商業者の交流できる拠点づくりが課題です。この事業を通して、様々な人との出会いができ、今までと違った観点からまちづくりを眺望できるようになりました。桑野会の皆様の中で、我がまちではこんな試みをやっているよといったニュースがありましたらご一報下さい。今後とも楽しくなる仕事にしたいと思っています。

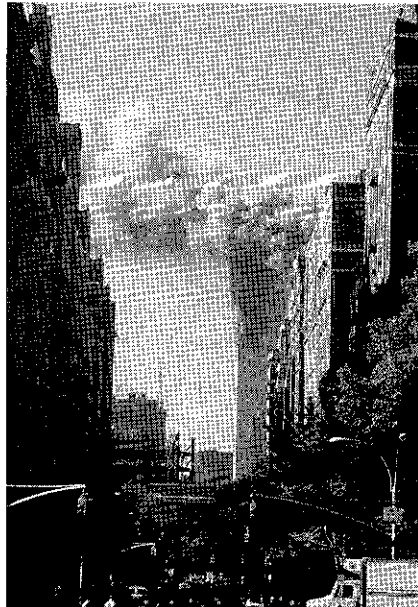
(株)櫻井淳計画工房 代表取締役

## NY '01.9.11

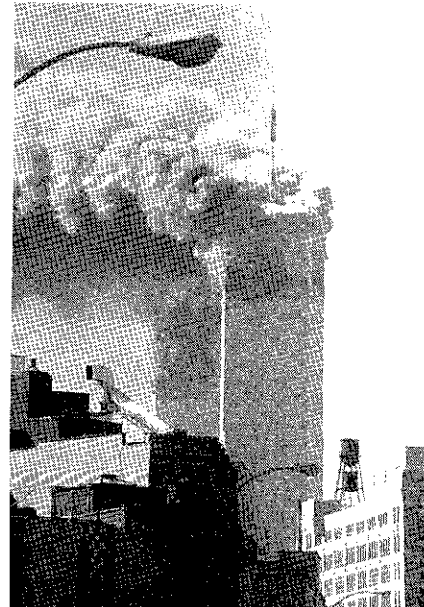
### 高松 ゆたか (74期)

その日の朝午前8時45分、私はカーネギーホール向い側のセントラルパークホテルのロビーに居た。その時刻、この先4キロメートルほどにあるツインタワーに自爆機が突っこんだとは露知らず44名を引率(朝日新聞奨学生4大生)して大きな観光バスに乗りこんでいた。ひんやりとした快晴のNYミッドタウンの朝で非常に静寂だった。行き交う人々もビルの群立も強い陽光をあびて色濃く影を落としていた。その分、人も街路樹のプラタナスもビルの壁面も煌々と輝いていた。

バスは行動を開始した。マンハッタンの道路は巨大ビルが両側に屹立しているのでU字溝の底を走るようなものだから空は縦長に見える。と、遙か前方の空に、縦長の天窓のような青空の中空に黒煙が左へ横切るように流れていた。タイムズスクエア左側のビルのテレビの大画面にもその映像が流されていた。正面に実像を見、側面にその映像を凝視していた。バスのガイドがラジオの情報を伝えた。「貿易センタービルの北側塔に飛行機が衝突して火災



をおこしています。工場の煙ではありません。でもオ、燃えるものが燃えてしまえばア、消えることでしょう」とのガイドだった。街路の道行く人たちは立ち止って画面を見、あるいは煙の方向を心配そうにみていた。バスはその煙の方向にさらに進行していった。「エンパイアにでも寄ってみようか」という具合に事の重大さには気づいていない(エンパイアはこの時点でクローズされていた)。9時01分頃バスは現場の500メートル付近にいた。ビル上層階の噴煙は眼前にあり左側へ噴き出す猛煙は見たこともない黒煙だった。路上から見上げる人々。現場を背に必死になって走ってくる大勢の人たち。9時07分、「南塔にも飛行機が突っ込んだ」とのガイド。ガイド嬢はもう平静さを失い「アアア……。あの中に私の友人がいるウ……。」バスの床に<sup>うずくま</sup>り泣き伏してしまった。と、とたんに立ちあがり涙を拭きながら「ゴメンナサイ、興奮してしまいました。あのタワーには3万5千人の人たちが働いています……。」今思えばこの時点ではもう既に



タワー内部は阿鼻叫喚の地獄だったに違いない。しかし外側からは全く想像できなかった。ポリスもファイアマンの活動も始まっていなかったように思える。私自身もようやく只事ではない! と思った。同乗の大学生44名の男女も言葉を失ってしまったかのように「アア!」とか「ウワァ!」とかの叫びしかない。眼は見開いたままのように噴煙、猛煙、黒煙に釘付けになってしまっていた。私は行動の中止を決め添乗員とガイドに指示した。9時35分を過ぎた頃か「南塔が無くなりました。崩れ落ちました。」現場から立ち昇る地煙は猛烈で、いったい何が起っているのかわからない。唯急に空が広くなったように覚えている。大勢の人々が恐怖から逃れようと全力で走ってくるのだった。もう現場はパニック。

記憶をたどれば大体以上になるだろうか。帰国便の機上で9月19日に書いたメモが残っているのでこれを転載して結びとしたい。

\* \* \*

二〇〇一年九月十一日NYノンフィ

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555





クション。旅初日、目の前の事。巨大ビル上層階噴煙。午前九時頃認む。「あの煙は工場からではありません」「ビル火災です」「飛行機が衝突したのが原因」「燃えるものが燃えてしまえば消えるでしょう」ガイドのガイドである。事の重大さに私たちも気付いていない。眼前の一方のビルが突然崩壊消える。バスは反転して現場を背後にした。空港、地下鉄、公共系統総て閉鎖。宿のTVでその恐ろしい実況を見た。私は旅行中止即帰国を心に決め発言した。本部員も皆同じ方向だったと思う。帰国の日処は空港再開時にどう糸口を掴むかにかかっていた。ここで添乗二名が大活躍をした。結果、アトランタ移動。二十二名帰国。二十七名ロス移動。内六名と二名各々成田直行。十九名シスコ移動。全員帰国。ハイジャック。乗客諸共目標突入自爆。中枢破壊。犠牲者。貧困の抵抗。報復。戦争準備。この現場に遭遇して君は何を考えつつ旅を終えたのか。私も又同様である。

(洋画家)

## 30年振りの再会

一年男、86期初の同期会—

熊谷 和年 (86期)

1月2日、午後3時から郡山ビューホテルで、86期生の卒業以来初めての同期会を開いた。

何人集まるだろうか、86期代表幹事の私は午前中から不安で一杯だった。というのも、その日は朝から不吉な予感がしており、そしてすでにその予感的中していたのである。

元旦に届いた年賀状300枚に返事を書くというのが、1日・2日の正月行事である私にとって、2日の日は8時スタートの箱根駅伝は年賀状書きの唯一の疲れ知らずの、同時進行ドラマである。

まして、今年は昨年大方の予想を裏切って上位入賞した母校法政が、ダークホースとして往路に全精力を集中していると聞いている。

いやが上にも期待が高まり、しかも2区ではエース徳本が登場し、ここで一気にトップに立ち、後は貯金を少しづつ減らしながらも優勝と、私の胸は早朝から高鳴っていた。

1区で終始トップ争いを演じ、1位と僅差で徳本へ。「それー、行けー」と母校大好き人間は、年賀状書きの筆を置きTVに釘付けになる。

素晴らしいダッシュ、軽快な足取り、「やはり徳本はやる男だ」と、ニンマリとした瞬間、突然後退した。何事ぞと、画面に食い入ると、何と跛を引いてるではないか。ズルズルと引き離され、顔は苦痛に歪んでいる。昔、スポーツ新聞で競馬予想をしていた私は、「駄目だ。すぐに止める!」と叫んだ。

しかし、徳本は右足を引きずる様にして、蛇行しながらも走っている。監

督の制止を振り切り、必死に走る。4年生としての意地か、キャプテンとしての誇りがそうさせているのか、母校のタスキを後輩に託す事のみだけに、突き動かされている様に見える。

感動した。俺らも安高生の頃には、あんなひたむきさがあったのに、86期は何だろう、あの頃の情熱は無くなってしまったのだろうか。

86期の桑野会年会費1万円を20年間滞納している86期の代表である私は、大先輩方から毎年嫌味を言われ続け、ましてや今年は48歳、桑野会総会・懇親会の総括担当当番期である。

その為、一昨年からこの現状を手紙にしたため、振込用紙も同封し86期全員に郵送した。振り込まれたのは20人。86期400名に対し、転居先不明で戻ったのは70数名だった。

昨年1月、夢に見た甲子園初出場が決まり、その寄付要請を記した文書を2回目に投函したが、その返事は50通。

そして今回、男女共学校の近況と、86期桑野会会費納入と甲子園寄付決算も記載し、1月2日の同期会の通知を発送したが、出席の返事が来たのは7通であった。母校何でも大好き人間としては、怒りを乗り越えて、諦めの心境であった。

法政の徳本は途中棄権した。86期の同期会も50名予約していたが、リタイヤするのか、窓の外を見上げると、どんよりとした空から大粒の雪がドカドカと舞い降りていた。

さて、同期会はどうなったか? 3時過ぎには50名の懐かしい顔、顔、顔。安高の血はまだ繋がっていた。大丈夫だった。私は嬉しかった。皆んなそれ相応に人生の年輪を重ねた立派な中年だった。各クラスの幹事も決まり、以後定期的に同期会を開く事も、また今年の総会に全力で臨む事も確認出来た。

☎ 0120-821-110

トランクルーム

家財保管

転勤・改築・建替等

FAXでも受付しています

☎ 0120-856-110 <http://www.wns.co.jp/flower>



引越センター

遠藤征志郎  
(72期)

本社 東京都府中市白糸台1-23-10

関自振第1782号

東京桑野会の86期の方にも協力をお願いします。

(安積桑野会86期代表幹事・  
郡山市議会議員)

## 天長地久

玄侑(橋本) 宗久 (88期)

小泉内閣メールマガジン第19号(10月25日配信)によると、小泉首相は上海でのAPEC首脳会合の際、ブッシュ大統領に贈った流鏑馬の鏑矢と弓を入れた小箱に「天長地久」と揮毫したそうだが、「老子」にあるその言葉の意味を「邪悪を退治し、地球に恒久平和をもたらすという意味」だと解説している。たしかにこれは「老子」第7章にあり、天皇皇后両陛下の誕生日を「天長節」「地久節」と呼ぶ典拠にもなった言葉だし中国でもよく見かける。悪くない言葉の選択だったのかもしれないが、「老子」においては断じて弓矢の箱に書くべき言葉ではないし「邪悪を退治」というような解釈も「老子」のどこをどう読んでも出てこないはずである。なにより退治する側の「正義」を、「正復た奇と為り、善復た妖と為る」(第58章)と考えるのが老子なのである。

別に老子に聞くまでもなく、戦争は「正義」によって起こる。そしてこの「正義」あるいは自らを「正統」であると意識することにかけて、今回戦っている両者はひけをとらない。片やグローバル・スタンダードを自認するアメリカ、そしてもう一方はイスラム法という絶対的な法を頑なに遵守しようというイスラム原理主義の過激派である。

正統な仏教など存在しない日本に住んでいると想像しにくいだろうが、イスラームにおいてはスンニー派、シーア派も神秘主義者も原理主義者も、実はどれもが自らを正統だと主張している。同じ宗教の内部に正統がいくつもあることが紛争の絶えない一因でもある。

キリスト教において正統が定められたのは4世紀の初め、ローマ帝国のコンスタンティヌス帝が国教を定めたことに端を発する。しかしこの時の正統キリスト教の内容はいかにも曖昧で、

いわば浄土宗とか真言宗という仏教宗派のどれか一つを正統と決めたのではなく、まるで「仏教」という新派閥を作るに似た感じがあった。正統ができることで異端が生まれたが、厳密に人間の救済のためのシナリオを追求したのはむしろグノーシス派を始めとする多くの異端側だったのではないだろうか？

正統派はその後国家原理として「救い」よりもむしろ「裁き」の宗教として成長する。初めてカソリックに触れた織田信長が天下統一の夢を抱くものけっして偶然ではなかったのだと思う。当時イギリスではエリザベス女王が百万人規模で異端の人々を処刑していた。正統という意識は、どうも自らすっきりしたピラミッド型の構造を求めていくらしく、そのためには殺戮をも辞さない。

米国での同時多発テロへの報復が始まって以来、しばしば憶い出す話がある。大正生まれの知人の父上だから明治の人なのだが、知人が少女の頃、例えば羊羹を兄と半分に分けてもらっても、やれ大きさが違うと喧嘩したりする。そうするとその父上は、二人の兄妹の間に坐って「そうかそうか、こっちが大きいか」と言って大きいほうを少し食べる。すると今度はもう一方が大きくなってしまい、そのことを抗議すると今度は「そうかそうか、こっちのほうが大きくなっちゃったなあ」と言いながらニコニコしたままもう一方を少し食べる。このままでは取り分がどんどん減ってしまうと気づいた二人は、ようやく喧嘩をやめたようだ。なんとも禅味のある話だが、つまり喧嘩をやめたのは、どちらかの主張が正しかったからではないというのが面白い。正義の勝利を夢見ていると、羊羹どころか地球がなくなってしまう。

日本には古来「正統」を育まない伝統があったと思う。もともと八百万の神々に守られているのだろう。あるいは「侘び」や「数寄者」の系譜も正統とは対極にある。恐らくは環境問題や経済からの要請としてのグローバル・スタンダードという考え方が分からないわけではないが、今の日本はむしろ東洋的スタンダードを提案すべきではないかと思ってしまう。その際「老子」に拠ることも有効だろう。老子はまる

で知人の父上のように言う。「世の中に絶対正しいことなど無いんだよ」(其れ正無し)と。

「老子」の言葉をじつは白楽天も「長恨歌」で使っている。「天長地久、時有りてか尽きんも、この恨みは綿々として尽くるの期なし」。難民として移動の途中殺された楊貴妃は、天地は悠久であると云ってもいつしか滅びるが、たとえそうであってもこの死別の苦しみは尽きないと歌うのである。そういう人が大勢出るまえに、両方の正義の能動性に老子なら巧みに水を差し、受動という強靱さを示すだろう。文化大革命を主導した政権が断絶していない中国にその役割が期待できない以上、日本が知人の父上のように、その役を果たすのは無理だろうか？

(僧侶、作家)

## グローバリズムと出版界

渡辺 政信 (88期)

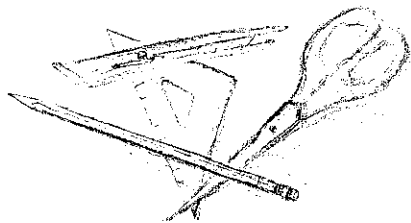
2001年9月11日をどこで迎えたかは、人々の記憶に深く刻まれることだろう。私は、ドイツ北西部の田舎町ギュータスローにいた。出版からテレビ、インターネットまで多彩な事業を展開する世界的なメディア企業「ベルテルスマン社」訪問のためである。およそ300万冊の本を収める自動化された巨大物流倉庫に度肝を抜かれ、送迎のタクシーに戻ったのは午後4時ごろ。運転手がなにやら興奮している。「ニューヨークで爆弾が爆発した。テロらしい」。仔細が分らぬまま、列車に3時間揺られ、ベルリンのホテルに戻った。そして、CNNのテレビ画面を見て、世界が震撼した事件を知ったのだった。

テロリストの憎悪の対象となったグローバリズムは、実は、ヨーロッパの出版界をも席卷していた。ドイツでも、その後訪れたイギリスでもフランスでも、書店はスーパーマーケットのように巨大化し、エンターテインメントのペーパーバックが入り口近くの棚を埋め尽くしている。人気があるのはいずこも同じ、S・キングやT・ハリスなどアメリカの作家たち。日本と同様、「若者の活字離れ」「硬い本が売れなくなった」と嘆くヨーロッパの出版人たちは、

苦境を乗り切るためにリストラや倉庫・営業部門のアウトソーシングを行っている。

辞書で有名なランダムハウスは、今や前出のベルテルスマングループの出版部門を統括する会社であり、本社はミュンヘンにある。本社ビルを訪れると、傘下に抱える30もの出版社が同居していた。ランダムハウスは北米や英国でも多くの出版社を傘下に持つ。一方、この大出版グループに負けじと、ドイツ、フランス、英国で中規模の出版社の大連合が結成されている。出版社の吸収合併や国境をまたいだグループ化という、まさにアメリカ流の経営手法である。その陰では、もはや名前だけしか残っていない名門出版社もある。買収された際に伝統を支えた編集者らは解雇され、新グループの縁もゆかりもない若い編集者がその出版社の名前で新刊を出す。例えば「純文学に伝統のある出版社だから、その名前を出した方が有利」などという理由で。実質のない、ただのブランドとしての扱いだ。

私が身を置く日本の出版界は、まだこれほどの「グローバリズム」の嵐には襲われていない。ただ、手がけていた雑誌の休刊という自分を振り返ることのできたこの時期、ニューヨークのテロの余波を感じながら、ヨーロッパの現状を取材して得た予感、あまり明るいものではなかった。日本の文化の一翼を担ってきた出版というものの再生のために、安積の諸先輩方の英知を是非お借りしたいと思っている。もちろん、同期生として机を並べ、文学を語り合った畏友・玄侑（橋本）宗久君の芥川賞受賞は、私にとっては、大きな激励のようにも感じられたのである。（株式会社新潮社）



## 男女共学について

菊地 繁 (98期)

中学生までは、男子よりも女子の方が早熟で学力もむしろ女子の方が上回っている、などと言われてますが、過去の例を見ると安積高校の生徒は、卒業時には他校の女子生徒を押しつけて学力テストなどでトップの座を獲得するのが常でした。3年間の高校生活の中で、何故この逆転劇が起きてきたのかを一言で言い表すことは出来ませんが、この現実が連綿として繰り返され伝統ともなりました。男女共学化第1期生は、その伝統的な底力のある安積高校という環境の中で男女の別なく切磋琢磨しあいながら互いを高め合うのですから、正に鬼に金棒だと思ってきました。本音を言えば、少なくとも東北地区では最高のポテンシャルを持つ生徒達が男女関係なく集まってくるんだ、などと内心ほくそ笑みながら学年担任を受けました。案に違わず、素晴らしい原石達が安積高校の門をくぐってきました。女子生徒に対する当初の不安も、文武両道を目指して日々励む彼女たちの姿に雲散霧消しました。むしろ男子生徒の方が「女子なんかいいよ、男同志の方が気が楽だ」などと幼稚な面を見せていました。日頃の生活での女子の頑張りを目の当たりにして、「女子なんか負けていられるものか」と気を吐く男子が現れるかなとも思いましたが、私のこの思考形態そのものが、現況には既にそぐわないものだという事に気づきました。決して女性蔑視ではないですが、元が男子校だったせいか私自身が「女子がいる」現実に適応できていない教員だったわけです。生徒達は、ずっと男女共学であり安積高校に入学してからも何ら変わることはなかったのです。高校入試をくぐり抜けてきた戦友同志という感覚で、みんな同じ安積高校の仲間なんだという意識が生徒達には最初から芽生えていたわけです。

この意識のギャップが、生徒たちにとっては何とも不可思議な質問を、大人達から投げかけられる要因となりました。「女子生徒はどうなの？大丈夫？」先生達だけでなく、地域の人々

やOBの方々からも、常に何かにつけて話題にされ続けてきた一年でした。

この一年、確かに女子は目覚ましい活躍を見せました。学習面も部活動面も正に文武両道でありました。これに対し、男子は当然のごとく文武両道に勇躍邁進しているのです。そもそもが、この男女別に考えてしまうこと自体が曲者であるわけです。安積高校の1年生は、先輩諸兄の築かれた伝統を受け継ぐべく日夜努力しています。ただ、この117期生からは女子がいるというだけではありません。安高生は今も変わらず、開拓者精神、文武両道、質実剛健を実現すべく日々精進しております。

とは言いましても、数年後には紫の旗の下を巣立つ初の女生徒達を、新たなOGの一員として温かく迎えてくださるよう切にお願いいたします。

(安積高校教諭)

## 新たな伝統

土田 隆弘 (105期)

安積が男女共学になって一年が経とうとしている。私は、現在郡山のある高等学校に勤め、そこで水泳部の顧問をしているのだが、その立場からみた「男女共学」について考えてみたい。

まず、第一に述べたいことは、違和感はないということである。審判をしていて、女子の種目の時に安積の名がコールされる。初めての時は確かに不思議な感じを持ったことは否めない。だが、それは始めの時だけであり、かつ、女子の活躍を見るにつれて、違和感を感じることは全くなくなったのである。逆に、男子の活躍と併せて、安積の名を高めているに相違ないと考えるのである。

第二に、「安積の伝統」をこれまで以上に考えているのは、女性の方ではないかと感じることである。それは、何より、女性が「女子第一期生」として、安積の名に恥じないようにと考えているからではあるまいか。と同時に、私が現役生の時から（あるいは、ずっと以前から）、女性が「安積に入りたい」と願っても実現できなかった、その願いがかなったという嬉しさの発露と考えることもできよう。げに喜ばしいこ

とだと考える。

以上、私の立場から見た「男女共学」について述べてきた。しかし、これを読まれていても、未だに、男女共学について違和感を感じている方々も多いのではないかと。

確かに、男女共学に反対される方々も多かるうことは理解できないことではない。それだけ、男子校という長い歴史を歩んできたのであるから、至極当然のことであると感ずる。しかしながら、これからの「安積のあり方」、そして「東京桑野会のあり方」を考えるのであるならば、「男女共学」となったこれからのこと、具体的に言えば、現在こそ少ない女性の後輩たちを、いかに同窓会などに出席し易いような環境を作っていくかということではないか。それが安積を卒業した私たちの紳士的な処し方だと考えるのである。

私が所属していた部活には、6人の女性が入部していた。OBが遊びに行っても、それぞれ一生懸命対応してくれている。今後の安積を担っていく現役生と、今までの安積を築いてきたOBが交流しあって初めて、新たな伝統が生まれていくのではないだろうか。

(県立郡山北工業高等学校 常勤講師)

## 男女共学化にみる 安積の未来

小平 朝子 (117期)

「栄えある女子一期生」「女子一期生へ高まる期待」…そんな謳い文句に踊らされているのか否か、私達女子一期生は様々な人からの視線を受けながら、この学び舎に通っている。『男女共学化』という1つのターニングポイントに立った安積高校の現役学生からみた実情をお伝えするが、正直に言えば、当の本人達に力強い信念というのはそれほどなく、ただ「トップレベルの男子と対等に張り合いたい」というある種の負けず嫌いが表に出たものを持って入ったのではと思われる。また、女子生徒の中には、男女共同参画社会が本格的に始動している現在となっては今更なのかもしれないが、まだまだ根を張り続ける「女は男の下」的な考え方を完全にこの手で打ち破りたいと思って入学した人も多いのかもしれない。

い。事実「女らしい=か弱い=男より下」…こんな等式はまだ生きているだろう。これは、具体的に女性の役割をせばめた江戸時代の女性の教科書『女大学』に起因する。ここから、日本におかしな固定概念—女は男に従う—が出来てしまった。女子一期生は、男子と対等になる事により「女は男より弱者」…この定義を「女も男も同格だ」にするために、意気込んで安積高校に入学した様に思う。

女子一期生は、女性政治活動の自由や女子高等教育の拡充、男女共学を求めた平塚らいてうのようだ。彼女が持っていた、間違っていたが日常的になってしまったもの—女大学—を間違っているとはっきり言い、正しい事を押し進めていける勇気を、開拓者精神を、それが自らにあると気付かなくとも、ほんの少しでも持っていたからこそ、安積高校を志したのだと思う。

共学化の蚊帳の中にいる自分としては上手く客観視できないが、安積高校は共学化によりどう変化していくのか。前進か、後退か。それは分からないけれど、今まで過ぎた短い間で、一つ分かった事がある。生徒会を筆頭に、安高生は、「安高の女子生徒」でも、「安高の男子生徒」でもなく、「一人の安積高校生」として、男女間の間違った境界線だの壁だのを無くす努力を惜しまないという事だ。いわゆる一般生徒が時折生徒会に送る投書などを読むと、その意気が存分に伝わってくる。部活動でも、部員が男子と女子との区切りを無くす様頑張っている。今回は女子の視点を重視してしまったが、男子も女子に負けない様に、女子も男子に負けない様に、良い意味でのラインは残しつつ、お互いに伸びていくことができたら良いと思う。

安積の男子校で築いた校風が共学化により崩れるという心配もあるだろう。しかし、安積の歴史を残しつつ、それをも凌ぐぐらいの、誰もが感嘆する様な新しい校風を築いていきたい。「共学化によって安高はより素晴らしくなった」と言われる様な学校を創るために、そして、自分達自身がそれによって充実感を得て、一歩、人間として成長するために。

## それぞれの持つ 雰囲気

星 瑞穂 (117期)

安積高校を受験した当初、男子校に初的女子として飛び込んでいくということに対して、私は何の意識もしていませんでした。何故なら、共学化ということがさほど大きな問題ではないと考えていたからです。小学校、中学校とずっと共学であった私にとって、共学の持つ意味はあまりに近すぎて見えにくいものなのです。男子校に女子が入学することの大変さを考えたのは、当事者である私たち女子よりも、むしろ、安積高校の先輩方、先生方だったのではないのでしょうか。

共学化の意味を考えさせられたのは、入学後でした。安積高校に残る男子校の雰囲気に触れてみて、客観的な視点で共学化を見ることができたのです。共学化は校風を一変させるものであり、またその校風は生徒個人の生活に大きく影響を与えるものなのだと感じました。

こう強く考えるようになった主なきっかけは、応援歌練習と対面式でした。先輩たちの盛り上がり方のものすごかったこと。力強く迫力のある、私たちを圧倒するようなあの雰囲気。「ああ、これが男子校なんだ。」今まで出会ったことのない世界に感動に近いものを覚えました。そして、共学と男子校では全く校風が違うということ、この時強く印象づけられました。

男子校には共学には無い良さがあると言えます。そしてきっと、女子校にも共学に無い良さがあるのでしょうか。それは独特の雰囲気、校風であり、そして世間では味わうことのできない貴重な経験であると思うのです。この校風が自分の性格に合うか、合わないかというのは大きな問題でしょう。高校生活を楽しく有意義に送るには、校風が自分に合っていないければなりません。

こういった点から、福島県から男子校や女子校が消えてしまうことは少々残念に思えてなりません。男子校の校風が合う人、女子校の校風が合う人、そして共学の校風が合う人、様々な人が存在するにも関わらず、男子校や女子校が無くなることは、そのような人

々から選択の余地を奪うことになると思うのです。自分に最も適する世界を選べないのです。

しかし、共学には男子校や女子高に比べ、大きく優れている点があります。それは友人関係のバリエーションの豊かさです。自分の知らない広い世界を友人を通じて見ることができる、これは男子校や女子校では難しいでしょう。また、男女共に働く今日の社会においては、共学化の流れというものは自然なものといえるでしょう。

今、私は共学化の一期生として、共学と男子校の両方の雰囲気に触れています。これは私にぴったりの校風です。両方の良いところを合わせ持つ、このような世界に出会えたことに感謝したいです。また、このような世界で高校生活を送れることは、私にとって一生の宝となると思います。

## 「母校」喪失の記

昭和33年安女高卒 高崎 千鶴子

21世紀の幕開け、安積黎明高校誕生の知らせは、私にとっては母校喪失を意味するものだった。

イギリスの詩人T・S・エリオットの詩の一節が脳裏をよぎる。

わが初めこそわが終わり、あい継いで  
家々は建ち倒れ、崩れ、建て増しされ、  
壊され、建て直され、または元の場所が  
広い野となり、工場となり、わき道となったりする。

(二宮尊道 訳)

これは、何万年にも及ぶ人類の歴史、あるいは、国家の歴史、ひいては人の一生を象徴的に表現したものであるが、今の私には、まさに「安女」の運命を詠ったものに思えてくる。

昭和30年入学当時は、古き良き時代を偲ばせる風格のある木造校舎で、北側の一角には、高女時代名残りの寄宿舎の建物がまだ残っていた。太平洋戦争をへて、その頃すでに老朽校舎といわれるほど傷みがはげしく、廊下には赤い字で危険個所の表示があったことを思い出す。

卒業後は郡山を離れ、年に数回帰郷するだけの生活になったが、校門の前を通りすぎる折に、校舎が一新しているのに気づいたときは、寂寥感を禁じえなかった。

校舎は単なる箱ではない。廊下のきしむ音、壁にしみ込んだ汗の臭い、木の温もりなどすべてが、いわば安女の「肉」といえるもの。旧校舎の解体は、安女の死を意味するものだったから。

でも、肉の死はやむを得ぬものとして受け止めることができた。詩にも「壊され、建て直され」とある通り、旧校舎の「終わり」が新校舎の「初め」となり命脈を維持していると考えることが出来たからである。

ところがこの度の校名変更は、安女89年の歴史を断ち切り、脈々とはぐくまれてきた安女の魂を消滅させた暴挙に思えてならない。

「男女が等しく教育を受ける権利があることは自明の理、共学化は当然の流れでしょう」と頭では理解できても、気持というものは身勝手なものである。

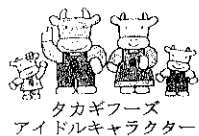
人名も同じだが、「名前」とは、存在のすべてであり、いわば命のようなものではないか。

「安女」の名は、私にとっては高校時代のすべてなのである。「安女」の言葉の中には、大好きだった恩師の顔、机を並べた友の顔、あこがれの先輩の顔……などがぎっしり詰まっており、他の言葉には代えがたい。「あんどよ」の響きを聞けば、たった3年だが、100年にも値するような大切な青春の日々を思い出す。

今、「安女」の名はもうない。「安女」の名とともに私の母校もなくなった。

だが実際は、安女は死して安積黎明高校として復活、再生を果たしている。母校はなくなったものの、新しい「いのち」の誕生を祝福したい。

(元出版社勤務)



選り抜かれた素材と確かな技術が生み出す逸品  
品質と食の安全性を追い求める  
精肉・そうざい・ハム・ソーセージの製造販売

株式会社 **タカギフーズ**

店舗網：関東地区27店（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県  
茨城県 他 静岡県）

〒251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4  
クゲヌマファースト 4F  
TEL 0466-26-2506 fax 0466-22 3977  
常務取締役 近内 靖夫(69期)

## 編集後記

●「……これらの建物のきらきらした夜の窓が、いつか[開戦直後の]ヨーロッパのように真っ暗に閉ざされる時が来ないであろうか。私の空想は、恋する若者[ロメオ]の滑稽な立姿を、飛行機と、爆弾に一変させていた。丁度彼の恋人[ジュリエット]の部屋のある二、三十階目、もしくは五、六十会目あたりから、摩天楼がつぎつぎに火を吐き、鉦で叩つ伐られる森の立樹のように、横っ飛びにすっ飛んで行くところを、あなたもちょっと想像して見て下さい。その怪奇と壮絶は、ただこの都市のみで見られる光景に相違ないのです。

しかし新聞紙をひろげると、アメリカの母の会の名前でこんな広告が出ている。『よその土地の戦争に、自分たちの息子を送るな。』……(野上弥生子著 岩波文庫『欧米の旅』)

これは欧州旅行中の野上弥生子が第二次世界大戦開戦により、1939年10月に、「落人」として帰国途中のニューヨーク訪問の記録である。

それから60余年後の2001年9月にその「ニューヨーク」を現場で高松豊氏が目撃し、「アフガニスタン」への支援活動に長らく貢献されている石黒早苗氏も桑野会の仲間の姿である。

(2002年2月17日記 67期 水口禎)

(2002/03/11付朝日新聞

「天声人語」参照)

●今回も会報編集に際して中学・高校の同期生・先輩の協力を頂いた。感謝申し上げます。中学同期で安女高卒の高崎(旧姓田中)千鶴子さんは当方の原稿依頼に快く応じてくれ「母校喪失の記」を寄稿して下さい。わが母校安高は共学化で大揺れしたが安女は共学化だけでなく校名変更という安女OGにとっては「母校喪失」とも受け取れる激震であったことを知りその衝撃の大きさにあらためてショックを受けた。安高同期の石黒早苗君の「再発見された国アフガニスタン」もいまままで我々がほとんど知らなかった「アフガニスタン」という国の事、彼自身が長年関わってきたNGO活動(最近にわかに脚光を浴びているが)の事など桑野会会員がいろいろな分野で活躍して

いる事を紹介できたのではと自負している。母校共学化の第1期生となった女子1年生ふたりの記事も興味あるものであった。ぜひお読み頂きたい。

(71期 増子邦雄)

●2001年4月から共学になりました。イラストは母校美術部の生徒作品、特に女子の部員が参加していれば女子一期生記念と考え美術部顧問の日下部先生にお願いしました。作品を寄せていただきましたが但し書きが添えてありました。その一部。「女子部員も入部して安高にも新たな風が生まれてくるようです。部員名や作品題名は特に記しませんでしたので、ご了解ください。」とありました。私はこの主旨を尊重し「安高美術部生」として掲載することにしました。女子の特定ができず不本意さが残りますが現役生の意見でもあろうと考え了解としました。私は共学の問題発生以来、頑なに安積建学原理主義に基き共学反対論を展開した一人ですが女子生徒の寄稿原稿を読んでもその表現は十分に頼もしく「原理論」はモロクも崩壊してしまいました。女子生の文章に加え女子生のイラストで花を添えようとしたのですが果たして採用した分にそれが含まれているかどうかは全くわかりません。末筆に自己宣伝。昨秋、おもいつきで安達太良山に登りました。印象を短歌にしてみました。

還暦のま近きわれやふるさとの

阿多多良山の頂きに立つ

これを東京歌壇の岡野弘彦先生に投稿したところ一月二十七日紙面でその評を得ました。人生の成熟期に故郷の山に登って、なお将来に期するものを定めようとする心の張りを思わせる。とありました。

追記：母校北側の松林(思索の森と語り継がれている)を伐採して野球の室内練習場を建てるとの件に「反対」してほしいとの呼びかけが74期嶋影健一君から東京桑野会に要請がありました。急ぎ「反対です」との意思表示を電話で申し入れるなど「運動」を試みたのですが果たして……。

(74期 高松ゆたか)

●今年の編集会議は時間をかけた密度の濃い議論がされたようです。私めは、一人酒を飲んで、スケジュールを心配していました。ところで、編集会議の

メンバーの高齢化が進行しています。是非、若手の広報部員を募集しています。月に一回程度郡山弁丸出しの呑みながらの編集会議に参加しませんか。

(広報部長 78期櫻井淳)

## 事務局便り

●会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されてしまいます。住所が変わっていると、せつかくの会報も戻って来てしまうので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願い致します。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

●総会の出欠葉書を同封していますが、事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。時々ご自分の期と卒業年を間違えておられる方がいらっしゃいますが、会報をお送りした封筒の宛名ラベルの右下に記入してあるのがご自分の期ですので、お間違えないようお願い致します。勤務先は変更がなければ省略していただいても結構です。

そして、連絡もれもあるかと思われまますので、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いします。

### 安積桑野会HPが

80%ほど出来あがっております。

アドレスは下記です。

<http://www.asaka-kuwano.jp/>

「ふるさとは遠きに有りて思うもの」、遠くの皆様にご喜んでいただけるかと。でも、昨今のWWWの激流の中、なかなか気付かれないものです。会員各位のお知り合いの方にも、機会がありましたら是非お知らせ下さい。

### 『東京桑野会会報』No.24

2002年4月1日発行

発行・編集人●古川 清

発行所●東京桑野会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

齊藤法律事務所気付

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-6678

製作●株式会社パンオフィス

〒101-0064 東京都千代田区泉楽町2-2-7

Tel 03-5280-9690 Fax 03-5280-9691